

岐阜同朋

ぎふどうぼう

- 仏教公開講座 念仏者の「お仕事」(田口 弘氏) ● コラムしょうしんげ
- 教如上人に学ぶ 岐阜教区第1組同朋の会・現地学習会
- 岐阜教区 第7組と教区最南端のお寺 南春寺
- 八田與一をたずねて

116 2016.11



岐阜教区第7組の寺院

羽島市南端部

八田與一をたずねて

はつたよいち
大暑も過ぎこれからが暑さ本番となりそんな時期、岐阜同朋116号の原稿を依頼され、さらに額から汗が滴り落ちる思いとなりました。今回、組の「同朋会推進員の会」の活動が紹介されることとなりますが、私自身が推進員養成講座を受けておらず、同朋の会にも加入していないため、各組の組織状況は気になりますが、門徒としては紹介記事が楽しみなところですよ。



八田與一が手がけた「鳥山頭ダム」

さて先日、友人に「君は浄土真宗の熱心な門徒さんだと聞いたが、八田與一という人物を知っているか？石川県金沢市の浄土真宗の門徒の家に生まれた方

で、彼の記念館や銅像、墓が台湾にあるのだが、行って見ないか。」と誘われて行ってきました。



▲変わったポーズの「與一像」。背後の墓も、現地の農民たちの配慮で日本式のもの建立された。

そこは台湾南部の嘉南平野にある鳥山頭ダムで、八田與一は戦前の日本統治時代の台湾で農業水利事業に大きな貢献をした人物でした。大正時代、日本政府によって派遣されましたが、台湾不毛の土地にダムを建設して、嘉南大圳と呼ばれる水路を整備し、地域を豊かな土地にした人物でした。しかし1942(昭和17)年5月、五島列島付近で米海軍の潜水艦に撃沈され、戦死されました。さらに終戦後、1945(昭和20)年9月には奥様の外代樹夫人も後を追うように子どもたちを残して鳥山頭ダムの送水口で投身自殺を遂げられたのです。

八田夫妻の人柄は、浄土真宗の生活の教えが地域に深く浸透している北陸出身だからこそこの記事もありました。政府の方針や自分の出世とは関係なく、台湾の人々の生活と幸せを願う思いが強い人物だったのでしょうか。

私たちは墓の前に立ち、花を添え、線香と蠟燭に火をつけ、旅行の参加者にも線香を手渡し、焼香してもらい、正信偈のお勤めをさせてもらいました。8月の終戦記念日が近づく各新聞には「非戦平和」への願いが多く記事になります。私たちは日々の生活の中で真宗の教えに学び過ぎなければならぬと思います。

今回、推進員の活動の紹介の中で、門徒の願いや思いがどのようにつながれるのかが楽しみです。



▲記念公園には外代樹夫人の像も

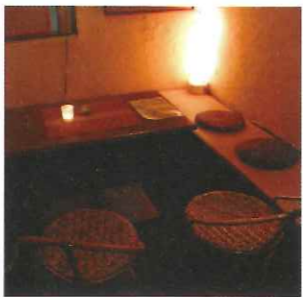
私はあるご縁により、羽島市のお寺で役僧をさせていただいています。そこでは、たくさんの方々のお宅を訪ねてお勤めをします。初めてのお宅にお邪魔するのは大変緊張し、なかなか思ったようにコミュニケーションがとれない事も多くあります。しかし、どのご家庭も笑顔で出迎えてくださいます。私のような若い僧侶に対して「こえんさん」と呼んでくださる方も多くおいでになり、改めて僧侶として責任を感じる日々を送っています。私は諸先輩方のように素晴らしいお話をすることはできませんが、僧侶として、真宗門徒の一員として皆さんと共に闘法し、共に学び、お念仏のある生活をしていきたいと強く願っています。こう思えるのは、今まで私を育ててくださった方々や新しく関わらせていただいた方々との出会いがあったからです。

またこの度、岐阜教区出版委員会の一員として新たなご縁をいただき、学ばせていただくことになりました。私で務まるのかという不安もありますが、今現在を生かさせていただいている私を感じたことを素直に表現していきたいと思っています。今後ともご指導よろしくお願ひ申し上げます。

(中嶋智生)

編集後記

通りになる人生を送ることなの
でしょうか。

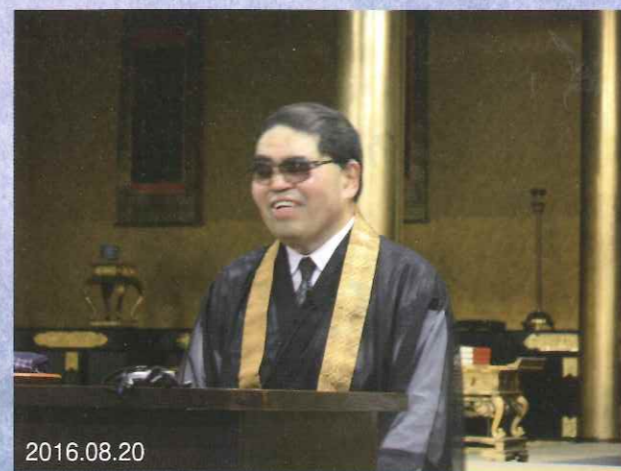


実は今日こちらへ来るとき東
京は大雨洪水警報が出るくらい
の大雨だったんです。でも私が家
から出ようと思ったら、ちょうど
雨が上がった。私はいつもお念仏
しているから、雨が私の味方をし
てくれた、親鸞聖人が、阿弥陀
さまが私の願いをきいてくれた
と、つい思ってしまう。雨の
降っていないタイミングで、私が出
ただけなのに、そう思うのが人
間なんです。

私たちの欲望はどこまでいっ
ても、なくならない。つまり幸せは、
どこまでいってもつかまらないの
です。曾我量深師は「私たちが
幸せを求めるのではなく、幸せ
を求めないことになることがこの

宗派の教え」とおっしゃってみえ
ます。私たちは幸せをつかむた
めに、宗教を使っているところが
あります。
私が子どもの頃、家にはいろ
んな宗教の人が、「目が見える
ようになるよう、祈祷をしてあ
げましょう」、「お経を上げまし
よう」と来たので、宗教は嫌いで
した。真宗の教えを聞き始めた
頃その話をすると、もし目が見
えたらとばかり思っていたから、
需要と供給が重なっ
て、「君がおかしな宗
教を呼び込んでしま
ったんだ」と笑われま
した。自分から逃げ
ない、真実から逃げ
ない、つまり自分の今
の相(すがた)をいた
だいていくことが大
切なんです。
人として生きると
いうことは、人に迷惑
をかけていることなん
です。私たちは誰も
自分の思いだけでは

岐阜教区 仏教公開講座



念仏者の「お仕事」 田口 弘氏

岐阜別院を会場として毎月20日に開
催されている「仏教公開講座」は、住職・
坊守・寺族・門徒が、自ら率先して学ぶ身
近な仏法聴聞の場として、「生きるってど
ういうこと」をテーマにスタートしました。
今日問われている、いのちや家族の問
題、社会で起きている様々な課題を、真宗
の教えを根底に自らの生き方に尋ね、共
に生きていく真の世界を見出すことを願
いとし、2004(平成16)年7月に第1回
が開催され、本年8月は146回を重ねる
こととなりました。
今後も一人でも多くの方々に、仏法聴
聞の場に出遇っていただくことを願い、今
回、仏教公開講座のお話を紹介させてい
たきます。

今日は親鸞聖人の教えを通し
て、仏法を聴かせていただきま
す。私は目が見えず、片耳も聞
こえないので、皆さんの方がたく
さん知識を持っていらつしやると
思います。しかし、人間は知識
だけで生きていくのでしょうか。
私たちが阿弥陀如来さまから、
どんな願いをかけられているの
でしょうか。それを一緒に確かめて
いくことはできるはずですよ。



私は東京四谷で坊主バーを始
めて16年になります。バーです
から、お酒を出すお店です。バー
にはいろんな悩みをかかえている
方々も来られます。会社を辞め
させられそうなお父さんとか、
家に帰っても家族が口をきいて
くれないお父さんとか、息子が
全然いうことをきいてくれない
お母さんとか、お母さんとお祖
母ちゃんがいとも喧嘩して、頭が
痛くなっている孫娘とか。そうい

う方が来られると、これは私の
出番ということになるんです。
柳ヶ瀬ブルースを初めて聞いた
のは小学校2年の頃でした。「雨
の降る夜は心も濡れるまして
一人じゃなお淋しい」。56歳の私
はこの気持ち、よくわかりま
す。大谷大学の先生が満員の坊
主バーにいらして、「世の中、これ
だけ思い通りになっていない人が
いるんだね」とおっしゃいました。
「心にひびがある。どうもすつき
りしない。通らないものをもって
いるからこそ、私たちは何かを
求めていくんですね。だから宗
教を求める」と。
しかし、宗教をつらく悲しい時
になくさめ、ささえてくれるもの
と錯覚しているのではないでしょ
うか。お店に来る方から、「幸せ
になるためには、どうしたらいい
でしょうか。」と問われる。それ
で、「あなたにとって幸せとは。」
と聞くと、「平凡でいい。人並み
でいいんです。」と答える。この平
凡・人並みとは、どういうこと
でしょうか。幸せって、自分の思い

生きていられないのです。そこに
苦しみの入り口があるんです。

お経の通りに生きている坊さ
んなんで、一人もいない。しかし、
お経の通りに生きていないとい
うことを言い訳にしたり、開き直
たりせず、はずかしい、情けない、
申し訳ないと心から思う生活は
誰でもできます。
寺の跡取りだから嫌だ、とい
うのは、寺を職業とするからで

す。真宗をいただくということ
であれば、いろんな縁でいただ
いていく寺の跡取りという縁もい
いんじゃないでしょうか。



2009.09 東京・坊主バーにて。
出版委員・O.氏と田口氏

コラム しょうしんげ

本師源空明仏教 本師源空は、仏教に明らかにして、
憐愍善悪凡夫人 善悪の凡夫人を憐愍せしむ。
真宗教証興片州 真宗の教証、片州に興す。
選択本願弘悪世 選択本願、悪世に弘む。
法然上人は、仏教に
精通し、善人や悪人す
べての人々を救いたい
とあわれみをかけられ、
日本の国に真実の宗教
を興され、阿弥陀仏の本
願(念仏の教え)をこの悪
世に広められた。
あるご門徒さんに月参りにお参りする
と、毎回、心地よい風が後方からふいてく
る。ご高齢のご婦人が、お勤め中すつと、う
ちわで僧侶の後ろからあおいで下さつてい
る。うちわが止まると、なんまんだが、な
んまんだぶと聞こえてくる。この空間情
景にいつも「南無阿弥陀仏」のお念仏の尊
さを感じるの、私だけであろうか。

五村別院

教如上人に学ぶ

第1組同朋の会・現地学習会



岐阜教区第1組 同朋の会会長
戸崎清彦

間法学習会 3月18日(金)
教如上人に学ぶ

教如上人四百回忌法要を機に、岐阜教区出版委員会から「岐阜の教如上人」が発行され、このテキストをもとに尾畑英和氏による間法学習会を開催致しました。

- ①大坂石山合戦と教如上人について
 - ②教如上人と織田信長、豊臣秀吉、徳川家康との関係について
 - ③東西本願寺の分立について
 - ④この地域と教如上人の深い関わりについて
- 以上の四点を中心に講義をして頂きました。



『岐阜の教如上人』
お問い合わせ：教務所(残僅少)

戦国時代末期の三英傑と堂々と渡り合い、教化拠点としての御坊(後の別院)も多く創立、大谷派宗門の礎となる「本願念仏の教え」を絶やすことなく守り続けられたのが、教如上人であることを学びました。

また私達の地元「郡上・羽島・安八・春日・大垣」の各地域には、ご縁のある旧跡が残されていることも知りました。

教如上人と密接な関係がある、滋賀県長浜市内の「五村別院」と長浜別院大通寺を訪ねました。

五村別院は、「五村の掛所」または「元の本山」とも言われ、本堂は重要文化財指定、境内には教如上人御廟、太子町(大坂)の聖徳太子御廟を模した円型御廟等がありました。残念ながら、あまり知られていない存在です。



五村別院にて「教如上人御影」拝観

長浜別院大通寺は、真宗大谷派の別の格として創立され、湖北三郡の真宗寺院の中核、「長浜の御坊さん」と呼ばれて親しまれています。

また、湖北の僧俗が信長と戦っている石山本願寺支援協議の寄合道場を設立したのが、長浜別院大通寺の起源と言われているそうです。本堂・阿弥陀堂は重要文化財、その他お籠など、いろいろな重要な物があり、ただただ感動するばかりでした。

教如上人は湖北門徒に真宗の教えを説き広め、湖北の寺院と

深いつながりがありました。信仰心の篤い土地柄のため、真宗王国とも呼ばれてきました。



五村別院経堂

今回、「教如上人」がダイナミックで数奇な生涯を歩まれたこと、さらに私達の地域と深いご縁があったことを学び、そして尾畑氏から「本当に教如上人が大切にされた親鸞聖人ご一流の信心を頂いていると言えるでしょうか？」というお言葉を大切に一言として受け止めさせていた

推進員の声

私たち推進員にとって、「同朋会運動」は、根幹をなすものです。「推進員」には、お手次寺で、門徒とお寺を強く繋ぐ使命をいただきました。

その取り組み方法は、末寺、推進員個人に任されているのが



長浜別院

現状です。お手次のお寺ご住職(育成員)と相談なされた上で実施活動されている場合、もしくは何も出来ない現状で、苦しんでいる推進員もいらっしゃるかと推察します。

私たち、「岐阜教区第1組同朋の会」は発足して7年目になります。本山での「推進員養成講座(後期)」で、御影堂の親鸞聖人御真影に、「誓いのことば」を残して、早や

6年以上の歳月が流れてしまいました。私たちが推進員は何を残せたのでしょうか!?

時が過ぎるとは歳老いていくこと、に他なりません。体力も気力も、年々衰えていきつつあります。

多くの推進員が、諸事情で推進員から外れてしま



った現実もあります(残念ですが)。育成員(ご住職)から、折角養成講座を受講されている推進員へ、今一度のフォローを願う次第です。(教区の改編問題など、難しい局面も生まれつつあります。)

真剣に、育成員・推進員、力を合わせて立ち向かい、同朋会運動を進めることではしか解決方法は無いと思います。 合掌



岐阜教区第7組と

教区最南端のお寺 南春寺

桑原輪中——羽島市南端部

羽島市は木曾川と長良川に挟まれ、南北に延びる細長い地形で、2つの大河は南端で合流。昔はいくつもの輪中からできており、地区ごとかなりの風土の違いが見られます。また、東西に走る名神高速道路と東海道新幹線が、ベルリンの壁のごとく立ちはだかり南北を分断し、北と南とは明らかに趣を異としています。

特に南端部は江戸時代から桑原輪中と呼ばれていた地域で、羽島市域で最も早く形成された輪中です。ということは、最も早くから閉じられた地域だったといえるのではないのでしょうか。その成立年次について記した文

岐阜教区最南端のお寺

7組の一番南、つまり岐阜教区最南端に南春寺(羽島市桑原町小藪)というお寺があります。寺伝によれば、「往古は天台宗で、1593(文禄2)年和泉国柳原新屋敷にあつて極性寺と称した。1632(寛永9)年、北海道松前福山城主佐渡守の次男勝甫



南春寺(撮影年月日不詳)



(本願寺九代実如弟子了甫法孫、江州四十九院の住職を退き、極性寺を移し、真宗南春寺と改めた。聖徳太子、七高僧絵像を下附されたのは、1663(寛文3)年癸卯姑洗二十二日。海部郡大須莊西小藪村南春寺とある。(本文文書によれば、江州四十九院から来住した故をもつて、御礼金を半額とせられた)。宣如上人(本願寺第十三代)絵像下附は、1661(万治4)年10月20日。太平洋戦争に供出された鐘銘に、1783(天明3)年中島郡小藪村南春寺とあった。」とあります。

書として『上山浄栄寺文書』に「当輪中出来、明暦二年午明和二年迄百一二年ナナル」とあります。明暦二年(1656)が申年であること、明和二年(1765)までの年数が間違っているなど信憑性を疑われる部分はあるが、新田開発の進捗年次などから概ねこの頃形成されたことは確かなようです。

また大正期から、羽島市を断行するかたちで走っていた、竹ヶ鼻鉄道(名鉄竹鼻線)が15年ほど前に南半分を廃線にしてしまひ、ますます孤立化に拍車がかかり、南端部の再輪中化が進んでいきました。目立った建物や施設もなく、あたり一面田園風景が広がり、市内で唯一「濃尾平野」を実感できる地域ですが、



同じ羽島市だと思っていない(北部)の市民も多数いるようです。

十三日講(7組)の歩み

この寂れた農村地帯が、十三日講(現在の岐阜教区第7組)のお寺が点在する地域です。かつて17ヶ寺が加わったとある文献にあります。現在は12ヶ寺(上中町1、下中町5、桑原町6)で営まれていますが、昭和前期までは尾張(祖父江町)のお寺が加わっていて、組織の複雑さを物語っています。

この組(十三日講)には明治期に竹鼻別院のおとりもちをするよう、本山より裁定が下ったようですが、それに反発。時の寺務所長(教務所長)と輪番が、現地に赴き調停するも効なく今日に至っています。今となっては定かではありませんが、尾張のお寺が加わっていたことに原因の一端があるように思えます。

そのため、7組は羽島市内で唯一、竹鼻別院の崇敬区域を外れており、他組との連携もほとんどなく、閉じられた地域でガラパゴスのように独自に歩んできました。ただし、尾張地区(稲沢市、愛西市)、西濃地区(海津市)との交流は盛んだったようです。

このお寺は明治期まで西小藪にあつて、西・中・東小藪に門徒を置いていました。が、1906(明治38)年から始まった長良川の河川改修の際、西小藪の西側を流れる川筋を西小藪と中小藪の間を通すことになり、寺基が川敷になつてしまつたため、1911(明治44)年に堂宇を現在地の中小藪側に移し再建しました。

このため、西小藪は長良川を挟んだ飛び地になり、お寺のない集落になつてしまいました。村人たちは大いに憂い、地下寺建立に奔走し、1921(大正10)年、新たに住職をお迎えし、「専光寺」というお寺を建立しました。このお寺はなぜか同じ羽島市内にありながら、大垣教区第17組に属しています。

南春寺はその後、西小藪を



【今昔マップ on the web】(C)谷 謙二

失い門徒数も3分の2以下に激減。以後の住職は教員などをしながら細々と法灯を繋いでいきましたが、現住職が放蕩の限りを尽くし、寺勢は著しく衰えています。(松前)



【参考文献】

- 『羽島市史』 羽島市
- 『木曾川文庫KISSO』 国土交通省中部地方整備局
- 『南春寺文書』 南春寺